

経済学者による RCT は倫理的に問題か？ 日本における RCT 型ウェブ調査からのエビデンス

横尾 英史

(国立環境研究所／経済産業研究所)

2019 年 1 月

要 旨

RCT 型フィールド実験に対する倫理観を明らかにするため、日本在住の約 2,000 人を対象に 2 種類のウェブ調査を実施した。第一回調査では、経済学者による実験 6 つを紹介し、「倫理的に問題があると感じるか？」を聞いた。調査の結果、6 つのうち 3 つは「どちらとも言えない」が多く、倫理的に「問題がある」と「ない」が概ね同数であった。残る 3 つのうち List and Gneezy (2013) の保育園の研究では、「問題がない」が過半数を占めた。逆に、Landry et al. (2006) の宝くじで寄付を募る研究では「問題がある」が過半数を占めた。実験の要素の変更により倫理的な問題意識を変化させられるかを研究するため、これら 2 つを題材として更に RCT 型ウェブ調査を実施した。この第二回調査では、無作為に選ばれた回答者に対して、実験の紹介文の内容を変えて提示した。その結果、保育園の研究において「子供が研究対象となることへの親の承諾がない」場合や「応募制ではなく無作為な標本抽出」とした場合に「問題がある」という回答が有意に増加した。また、RCT という研究デザインが問題である可能性を検証するため、前後比較で募金の研究を行う紹介文と比較したものの、「問題がある」は減少しなかった。ただし、同じ研究デザインと処置でも、寄付ではなく別の行動を対象とした場合には「問題がある」が有意に減少した。これらの結果より、RCT 型フィールド実験がどのような条件で倫理的に問題があると受け止められ、それをどうすれば緩和できるかについての示唆が得られた。日本の政策形成において、実験設計の工夫によって倫理的な嫌悪感を軽減しつつ政策の試行と評価を実施していくことが望まれる。

キーワード：ウェブ調査、フィールド実験、ランダム化比較試験、倫理観

JEL classification: A13, C93

本稿の作成にあたって、柳沢小終子氏に素晴らしい研究補助をして頂いた。また、本稿の調査・データセット構築にあたって、金山公子氏、本島英美氏、吉岡渚氏ならびに(株)インテージリサーチ・田守綾氏にご協力を頂いた。加えて、本稿の原案に対して、樋口裕城氏、鈴木綾氏、栗山浩一氏、小林庸平氏、青柳恵太郎氏ならびに独立行政法人経済産業研究所 (RIETI) ディスカッション・ペーパー検討会の方々から多くの有益なコメントを頂いた。ここに記して、感謝の意を表したい。本稿は RIETI におけるプロジェクト「日本におけるエビデンスに基づく政策の推進」の成果の一部である。また、本研究は JSPS 科研費 JP17K18547「ランダム化比較試験を用いた環境・エネルギー政策研究の手法確立」の助成を受けたものである。